

多肉植物の管理

■材料

水苔・土・チキンネット・水・ワイヤー・多肉植物各種

■多肉植物 種類（置き場所、水やり）



- ・**ブロンズヒメ ベンケイソウ科** ※日当たりと風通しのよい場所で育てます。
水や肥料は控えめにした方が、葉の銅色はキレイに出やすいです。
春から秋は元気に育つので、乾いたら水をやります。気温の低い冬は生長せず水もほしがらないので、完全に乾いてもとりあえず水やりはガマンして、数日経過してから与えます。
- ・**ハツコイ ベンケイソウ科** ※日当たりと風通しのよい場所で育てます。
半月～1か月に一度、土の表面が濡れる程度あたえます。
あまりたくさんあたえると土が乾きにくく根腐れの原因となるので注意、1週間以上湿っていないようにしましょう。
冬でもできるだけ屋外で日光浴させましょう。
- ・**オボロツキ ベンケイソウ科** ※日当たりと風通しのよい場所で育てます。
乾燥に強い植物です。生育期(春～秋)は土が完全に乾いたら水を与えるようにします。
冬はほぼ生長しないので、水やりは月1～2回程度、少量与えるくらいでよいです。
厳寒期は断水してもかまいません。
- ・**シュウレイ ベンケイソウ科** ※日当たりと風通しのよい場所で育てます。
乾燥を好むので、水やりは控えめに。
土が完全に乾いてから3日目以降の午前中に少なめにあたえる程度がよいです。水をやり過ぎて、土が「過湿」になると、植物全体が腐ってしまいます。
冬の水やりは一月に一回で十分です。冬は水やりを控えると植物内の水分が減り、体液濃度が濃くなることで耐寒性が増します。
- ・**カゲツ ベンケイソウ科** ※日当たりと風通しのよい場所で育てます。
茎、葉とも水分をたっぷり貯えることができるので、少々水やりを忘れても枯れてしまう確率は少ないです。
そういう意味では手間のかからない植物といえるのかもしれませんが。
一年を通して乾かし気味に管理します。
冬は休眠しており、水をあまり必要としないので水やりは少なめにします。
土の表面が乾いて4～5日経過してから水をやればよいでしょう。
- ・**スプレnder ベンケイソウ科** ※日当たりと風通しのよい場所で育てます。
半砂漠地帯に生育するので過湿を嫌います。
冬と夏は生育しないので、冬は月に1回の水やり、日本の夏は苦手なので、月に1、2回ぐらいとかなり控えめに水やりします。
春の3月から6月頃、夏の気温が下がった9月頃は表面が白く乾いてから、更に2、3日してからの水やりになります。
葉に水分を蓄えているので、乾燥にはとても強いです。
- ・**シェイラケリー ベンケイソウ科** ※日当たりと風通しのよい場所で育てます。
生育期には、土の表面が乾いたらたっぷり水を与えます。
休眠期は、葉がしわしわになるまで断水し、1回で鉢底から流れ出るまでたっぷり水やりをしてください。
乾燥気味に育てることで、根腐れを防ぎます。

多肉植物リース作り

■作り方 手順

- ①ビニール手袋を装着します(細かい作業があるので、指先までしっかり付けます)
- ②チキンネットを広げます(平らになるように、しっかりと広げます)
※ワイヤーの切れ端が指に刺さる場合があるので注意しましょう。
- ③水苔を水に浸け、絞り出します(完全に水を絞りきらずに七分目程度に絞ります)
- ④チキンネットの上に水苔を広げます(チキンネットよりも一回り小さめに水苔を広げま
※全体にまんべんなく、長方形を作るイメージで..
- ⑤水苔の上に土を置いていきます(中央一列になるように土を置き、霧吹きで少し濡らします)
※土を軽く湿らす程度に、霧吹きを吹きかける
- ⑥チキンネットを丸めていきます(巻き寿司を作る要領で巻きます)
※巻き簾で、巻き寿司を作る要領である程度しっかり巻くと、形が崩れなくてよい
- ⑦1本棒になります(きっちり巻けているか確認しましょう)
※全体的にバランス良く、同じ太さで巻きあげると仕上がりがも素敵になります!
- ⑧繋ぎ目をワイヤーで留めます(全体に5箇所程度、留めましょう)
※均等に5箇所程度、ワイヤーでクラッチして留める
- ⑨余分なワイヤーはカットします(チキンネットの端くれも、余分な物はカットします)
※ワイヤーの端くれをおさえる際、指に刺さる場合があるので注意しましょう。
また、カットした端くれのワイヤーは水苔の中に入れてしまいましょう。
- ⑩両サイドを処理してリースを作ります(両サイドは中に水苔を押し込みましょう)
※両サイドにワイヤーをつける際、4箇所均等に留めるのが理想的
- ⑪リースの繋ぎ目をワイヤーで留る(形を整える際余分なワイヤーが突き出ているので注意しましょう)
※上部分は平らにしておく、多肉植物を植えやすくなる
- ⑫ドーナツリースみたいにします(土がはみ出していないかチェックし、調整する)
※植物にとって土は、大事な栄養源となります。
土を入れた部分が見えていると、水をあげた際にその部分から土が流れ出てしまいます。
土が見えている箇所があったら、水苔を部分的に入れて土が見えなくしてあげましょう。
- ⑬ポットから多肉植物を取り出します(手で土、根「根の全体の半分程度」をとりましょう)
※葉の部分を優しく押さえて根切をしましょう
- ⑭水で土を洗い流します(根を洗う際、余分な根は取り除きます)
※根の部分はとてもデリケートなので、優しく洗い流しましょう
- ⑮植える際の配置を考慮しておきましょう(植える際、余分な土、根が残っていると植えづらくなります)
※多肉植物は、形や色がとても個性的です。
過酷な環境で生き抜いていく為に、個性的に進化を遂げてきました。
葉に水を蓄えたり、擬態し外敵から身を守ったりしています。
- ⑯リースに穴を開けて多肉を植えます(ハサミでチキンネットをカットし、串で穴を開けて植えます)
※串で多肉の「茎」「根」を押し込む際、串の平状になっている部分で、極力多肉植物を傷つけないようにします
- ⑰多肉植物の向きを調整しましょう(形や色、向きなどによって見え方が変わります)
※多肉植物が安定しない場合は、ワイヤーで固定させます。
ある程度日がたち、根が定着したらワイヤーは外しても大丈夫です。
- ⑱完成(水遣りは受け皿に水を溜めて、暫く置いておきましょう)
※上から水をかけるだけだと、なかなか水苔に水が浸透しません。
受け皿に水を溜めて暫く浸けておくと、水を吸い込みますので試してください。
・4月～9月は、しっかり水をあげましょう。
・10月～3月は、乾かし気味で管理しましょう。

